

第Ⅱ部 広島県合同輸血療法研修会
(平成27年 1 月31日開催)

第Ⅱ部 平成26年度広島県合同輸血療法研修会の開催について

1 概要

広島県合同輸血療法委員会の設置目的である「医療機関における輸血療法委員会相互の情報交換を図り、広島県内における輸血医療の標準化をめざすものとする。」に則り、血液製剤の適正使用、安全性に関する知識の向上及び有効利用のより一層の推進を図ることを目的として、次のとおり開催した。

2 開催結果

県内医療機関等から、160名（医師17名、薬剤師14名、看護師41名、臨床検査技師80名及びその他8名）の参加があった。特別講演として青森県黒石市国民健康保険 黒石病院 看護師長 西塚和美先生をお招きして「看護師として実践する Patient Blood Management」と題して特別講演をいただいたほか、県内医療機関の輸血療法の状況に関するアンケート調査報告や、

ワークショップ「どうするんだ！？輸血前後検査！」と題し、広島県赤十字血液センター、広島赤十字・原爆病院、市立三次中央病院、医療法人光臨会荒木脳神経外科病院の担当者から各施設での取組状況について発表をいただき情報交換を行った。輸血前後検査については、県内で統一したマニュアル策定を求める意見があり、委員会として平成27年度に取組むこととした。

（特別講演について）

◎第3部 特別講演

・テーマ：看護師として実践する Patient Blood Management」

講師 青森県黒石市国民健康保険 黒石病院 看護師長 西塚 和美 先生
全医療人で達成する良質な輸血医療

- ・安全な輸血には、関係する専門職の相互信頼が欠かせない。
- ・日本輸血・細胞治療学会認定医、認定輸血検査技師、学会認定・自己血輸血看護師、学会認定・臨床輸血看護師、学会認定・アフエレーシスナースの制度化に取り組み、定着してきた。
- ・輸血過誤（ＡＢＯ不適合）の頻度は、1980年代の150～200人と比較すると2000年代前半で5人以下と減少している。ＡＢＯ不適合には、単に血液型を間違えたのではなく、もっと基本的な患者の取り違いや保存の不備等もある。問題点として①一つのトレイに2人分の血液製剤を保存していた、②患者確認・ダブルチェックを怠った、などが指摘されている。
- ・場合によっては、血液型の異なる輸血も必要である。（Ｏ型は、Ａ型、Ｂ型、ＡＢ型に輸血できるし、Ａ型及びＢ型は、ＡＢ型に輸血できる。Ｒｈ（－）の血液はＲｈ（＋）に輸血可。逆は不可。）
- ・問題が生じた場合には、安全管理部や輸血療法委員会を通じて病院全体で改善していくことが必要。

<開催概要>

1 日 時

平成27年1月31日(土) 15時～18時

2 場 所

広島県庁本館6階 講堂
(広島市中区基町10番52号)

3 主 催

広島県合同輸血療法委員会(事務局; 広島県, 広島県赤十字血液センター)

4 共 催

(一社)日本輸血・細胞治療学会中国四国支部, (一社)広島県医師会,
(一社)広島県病院協会, (一社)広島県臨床検査技師会, (公社)広島県看護協会,
(公社)広島県薬剤師会,

5 参加対象者

医師, 薬剤師, 看護師及び臨床検査技師 等

6 演題及び講師

(開会あいさつ)～広島県健康福祉局薬務課長 海嶋 照美
広島県合同輸血療法委員会委員長 高田 昇

第1部

「輸血療法に関するアンケート」結果報告等

広島大学病院輸血部部長 藤井 輝久

第2部

ワークショップ「どうするんだ!? 輸血前後の感染症検査」

(演者)	広島県赤十字血液センター	入船 秀典
	広島赤十字・原爆病院	楠木 晃三
	市立三次中央病院	熊澤 鈴子
	荒木脳神経外科病院	西田麻衣子

第3部

特別講演 「看護師として実践する Patient Blood Management」

青森県黒石市国民健康保険 黒石病院 看護師長 西塚 和美 先生

(閉会あいさつ)～広島県赤十字血液センター所長 山本 昌弘

7 資料

次ページ以下に掲載